

海外安全対策情報（平成27年4月～6月）

1 社会・治安情勢

ベラルーシの治安は、おおむね良好ではあるものの、過去には爆発事件も発生しており、また、反体制派による集会やデモに対しては、ベラルーシ当局によって参加者が拘束されるケースも発生しています。不測の事態を避けるため、多くの人が集まる記念式典やコンサート、集会等には用件のある時以外は近づかない等注意が必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2015年1月1日から6月30日までのベラルーシにおける犯罪総数は48,319件で、昨年同時期と比較し3.4%増加しています。未成年者による麻薬犯罪が増加しているとの報道もありますので注意してください。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗	19,691件（前年比0.02%増）
（うち住宅対象侵入窃盗）	5,477件（同4.9%増）
イ 公然窃盗	1,134件（同2.6%減）
ウ 恐喝	84件（同10.5%増）
エ 詐欺	1,893件（同17.8%減）
オ フーリガン犯罪	1,825件（同39.0%増）
カ 殺人及び殺人未遂	210件（同5.8%減）
キ 重傷傷害	423件（同6.4%減）
ク 強盗	163件（同17.3%増）
ケ 強姦及び強姦未遂	70件（同12.9%増）

(2) 邦人被害事案は報告されていません。

(3) 2015年4月～6月における主な被害事案は以下のとおりです(当地の報道から作成)。

ア 4月6日昼、ミンスク市オリシェフスコヴォ通りの食料品店にて、二人の男が銃で店員を脅迫し、売上金64万ベラルーシ・ルーブルを奪い、逃走した。捜査の結果、犯人の身元が判明し、拘束された。

イ 4月18日、ミンスク市独立大通りにて、20歳のポリソフ市在住の若者達が女性から鞆を奪い取った。彼らは当日にポリソフ市から休暇でミンスクに来ており、面白半分に女性から鞆を強奪したと供述している。実行犯は、独房にて一時的に拘束されている。

ウ 5月15日、モギリョフ市にて6人の住民が被害にあった連続殺人事件に関して、3人組が逮捕された。犯人らは、一人暮らしで身寄りのない、社会との関わりが希薄な者を選んでいたので、警察に行方不明者の捜索願は出ていなかった。しかし、2014年11月、警察はモギリョフ市住民から行方不明の親族の捜索依頼を受けたことから、事件が明らかとなり、2015年の3月にモギリョフ市周辺の森林地帯に被害者を運んでいたところを拘束された。犯人らは、顧客と被害者となるアパートの所有者との間で仲介者を装っており、顧客からアパートの所有者へ代金が渡った時点で、その代金と共に被害者を誘拐し、殺害に及んでいた。

エ 5月15日、ゴメリ市にて女性が仕事に行ったきり消息を絶った。警察は捜査2日目に、被害者の元同僚の男性を拘束した。調べによると、犯人は女性を職場に送ると申し出たが、ガレージへ乗り付けて絞殺し、遺体を川岸に埋めた。また、同犯人は、昨年7月15日に行方不明になった元同僚の女性の殺害にも関与している可能性があることが分かり、遺体の遺棄場所を供述した。

オ 5月29日、ミンスク市にて、若い夫婦が通りを歩いていたところ、男が大声で彼らを引き留めた。男は明らかに酒に酔っていたため、夫婦は男を無視し、近くに停めてあった車に向かった。車内に乗り込み、扉をロックし、車で逃げようとしたところ、それに対して腹を立てた男が、窓ガラスを殴打しひびが入った。近くにいた警察官が異常な状況に気づき、男を拘束した。

カ 6月8日、ミンスク市ペトラグレブキ通りのアパートの共有玄関にて、88歳の年金受給者の男性が強盗にあった。犯人は2人組の若者で、40万ベラルルーシ・ルーブルを奪い、逃走したが、間もなく警察によって拘束された。被害者は怪我を負ったため、病院に搬送された。

キ 6月9日、ソルティサ通りの店のレジで、二人の酒に酔った男が会計をしていた男性に付きまとい、何も言わず、いきなり暴行を加えた。事件後犯人は逃亡したが、警察の捜査の結果、身元が判明し、拘束された。犯人は27歳と29歳の男で、うち一人はロシア人であった。

3 テロ・爆弾事件の発生状況

本件事案は報告されていません。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況

本件事案は報告されていません。

5 日本企業の安全に関する諸問題
なし。

※上述の事案は全体の一部の情報です。定期的に報道等を確認し、自身の安全確保に努めてください。